

平成25年 5月 2日

各位

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター

村上 恭通

## 第1回東アジア鉄器研究ワークショップ in 吉野ヶ里のご案内

拝啓 皆様にはいよいよご清勝のこととお喜び申し上げます。平素は何かとご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センターでは鉄がアジア各地の社会・文化に与えた影響を明らかにすることを目的とし、実地調査を重視した調査研究を続けております。

このたび、佐賀県教育庁との共催で、第1回東アジア鉄器研究ワークショップを企画しました（別紙）。吉野ヶ里遺跡出土の鉄器を前にして鉄・鉄器に関心をもつ研究者間で活発な意見交換・検討を行いたいと考えています。皆様のご参集をお待ちしております。また、鉄器研究に関心をもつ学生も歓迎いたします。

敬具

## 記

### 第1回東アジア鉄器研究ワークショップ

日 時：平成25年 7月13日（土曜日） 午後1時より

場 所：吉野ヶ里遺跡発掘調査整理事務所（佐賀県神埼郡吉野ヶ里町田手 2721）

主 体：愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター、佐賀県教育庁文化財課

内 容：

- 吉野ヶ里遺跡出土鉄器（約230点）を並べて、資料の観察と意見交換。
- 専門家によるコメント・情報提供：金武重・宮崎敬士・村上恭通ほか。

申し込み方法：下記のメールアドレスまたはFAXへ申し込みください。

1. お名前、所属、連絡先。
2. 懇親会参加希望の有無。

閉会後にJR佐賀駅周辺で懇親会を予定しております。是非ご参加ください。

問合せ先：愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター（担当：榎林啓介、笹田朋孝）

Tel/Fax：089-927-8391 E-mail：kotetsuAIC@gmail.com

以上

## 1 本企画の趣旨

鉄器は、地域を問わず、登場して以降、その地域の歴史に大きく影響を与えてきた。しかし、土中にいったん埋没し、現在、われわれの眼前に現れる際には、錆に覆われ、変形し、旧状を留める例はきわめて少ない。そのことが、鉄器研究を妨げており、研究者間の共通認識を乏しくさせている。この事態を打破するためには、研究者たちが一堂に会し、遺物を見ながら、議論しつつ、研究を進めるスタイルが求められる。そのためには量・質ともに十分な鉄製品を有し、鉄器自体のみならず、鉄器群の背景にある技術や交流など、多様な議論を可能とする遺跡を対象とすることが望ましい。

吉野ヶ里遺跡は弥生時代を代表する重要な遺跡である。出土した鉄製品は北部九州の基準資料であり、対外交流を物語る重要な資料に富んでいるが、その全容や具体像は不明な点が多い。近年、報告書刊行に向けて整理作業が進んでおり、出土鉄器の全体を把握しながら、実物に即した検討を行うには最も適切な状況となっている。

鉄器研究ワークショップでは、実物資料を前に、鉄器研究者の間で活発な意見交換を行うことにより、観察する能力の向上を目指し、研究レベルのボトムアップを企図する。また、海外からの参加者を募ることで鉄器研究の視野を広げながら、日本の鉄器研究の現場で研究交流を促進することで、中国や韓国などの東アジア諸国との国際的な共同研究へと発展させる。

## 2 資料の概況

吉野ヶ里遺跡では弥生時代中期～後期の鉄器が230点近く出土しており、資料の内訳は板状鉄斧、袋状鉄斧、刀子、鑿、ヤリガンナ、鋤先、鉄鎌、摘鎌、鉄鍬、鉄剣、鉄矛、鑄造鉄斧の再加工品などである。

農工具、とくに加工具が中心の組成であることや墓よりも集落（環濠など）から多くの鉄器が出土していることが特徴である。



詳細は吉野ヶ里歴史公園などのHPを参照下さい。